

令和3年度（2021年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 ・ 桜町、花畑周辺のにぎわいの創出【第2期】 ・ 中心市街地の防災性の向上（防災・安全）
事業（計画）期間	平成27年度～ 平成31年度(5年間)
担当課	都市建設局 都市政策部 市街地整備課

国予算の平成30年度第二次補正に伴う本市整備計画の変遷

社会資本整備総合交付金

1期 (H22～H26)

桜町、花畑周辺の
にぎわいの創出

2期 (H27～H31)

桜町、花畑周辺のにぎ
わいの創出【第2期】

水害・土砂災害や大規模地震に
対する再度災害防止等の防災・
減災対策に対処するための国予
算が成立したため、**桜町地区市
街地再開発事業のみ**防災・安全
交付金へ移行。

平成
30
年度
二
次
補
正
予
算

社会資本整備総合交付金

2期 (H27～H31)

桜町、花畑周辺のにぎわ
いの創出【第2期】
(基幹事業)
暮らし・賑わい再生事業

防災・安全交付金

1期 (H30～H31)

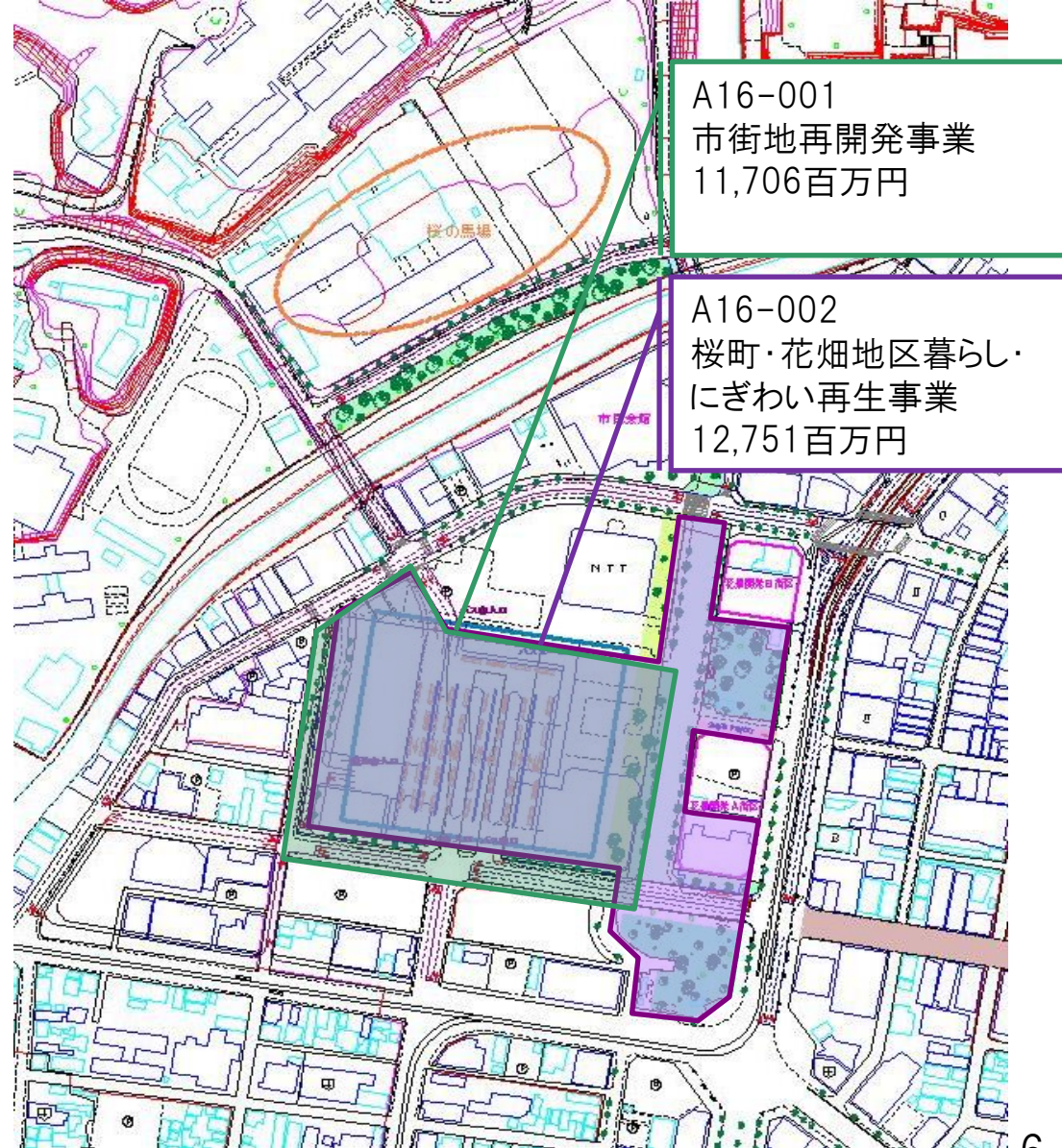
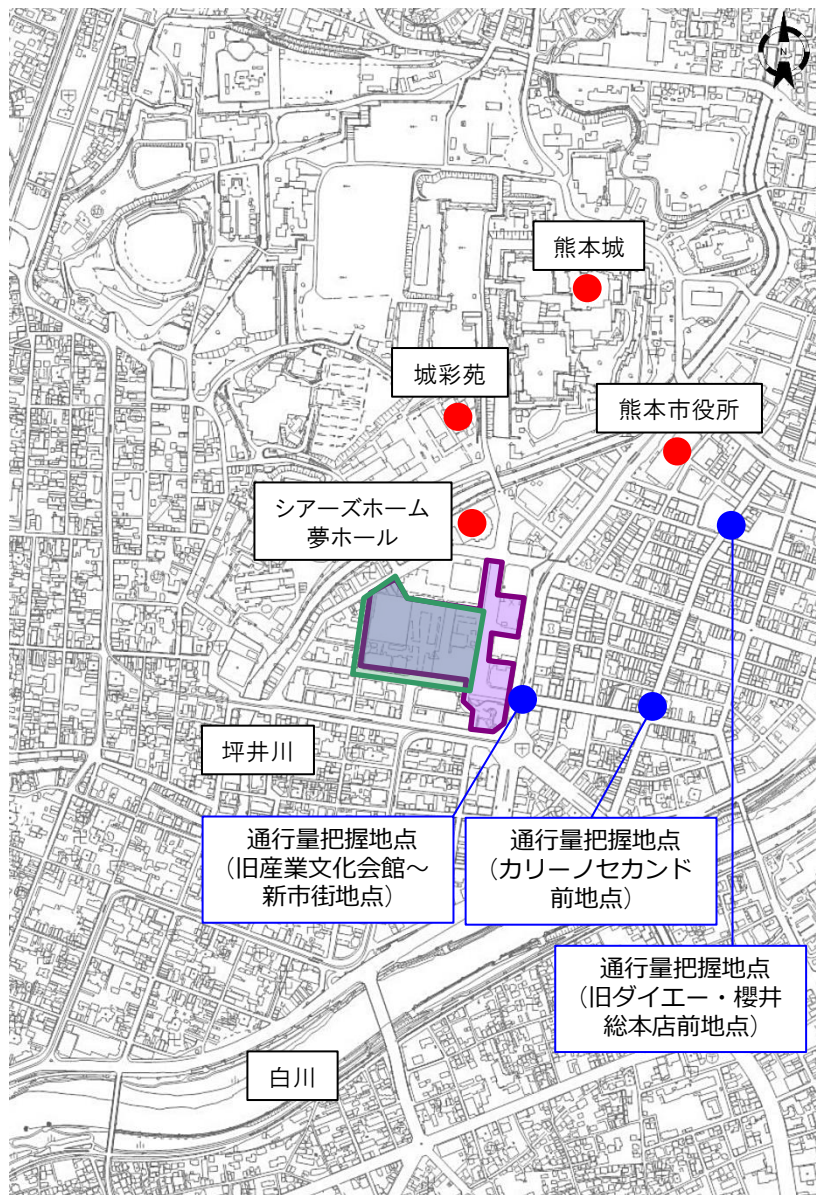
中心市街地の防災性
の向上(防災・安全)
(基幹事業)
桜町地区市街地再開発事業

事業費	24,457百万円	
経緯	H26.4 桜町地区第一種市街地再開発事業の都市計画決定 H26.5 熊本桜町再開発株式会社の設立 H27.5 事業施行認可 H28.4 熊本地震発生 H29.1 施設建築物新築工事着工 R1.9 建築工事完了 R1.12 熊本城ホール グランドオープン R3.3 事業完了	
定量的指標	《桜町、花畑周辺のにぎわいの創出【第2期】》 市民アンケート調査により、「中心市街地に賑わいがあると感じる市民の割合」を把握する。 H27年度当初：41%⇒H31年度末目標：60% 中心市街地における歩行者及び自転車通行者の通行量を把握する。 (旧産業文化会館～新市街地点) H27年度当初：10,644人⇒H31年度末目標：24,788人 (カリーノセカンド前地点) H27年度当初：21,300人⇒H31年度末目標：29,792人 (旧ダイエー・櫻井総本店前地点) H27年度当初：24,408人⇒H31年度末目標：30,524人 《中心市街地の防災性の向上（防災・安全）》 再開発施設の完成により、災害時に受け入れ可能となる一時帰宅困難者等の受入人数を比較する。 H30年度当初：0人⇒H31年度末目標：11,000人	

交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業（2事業）					
① 住環境整備事業	住宅	桜町地区市街地 再開発事業	市街地再開発 事業 約3.7ha	H27～H30 (社会資本整備総合交付金) H30～H31 (防災・安全交付金)	6,331百万円 (社会資本整備総合交付金) 5,375百万円 (防災・安全交付金)
				小計	11,706百万円
② 住環境整備事業	住宅	桜町・花畑地区 暮らし・にぎわ い再生事業	公益施設整備、 花畑広場整備	H28～H31	12,751百万円
				小計	12,751百万円
B 関連事業					
C 効果促進事業					
全体事業費（A+B+C）					
				小計	24,457百万円

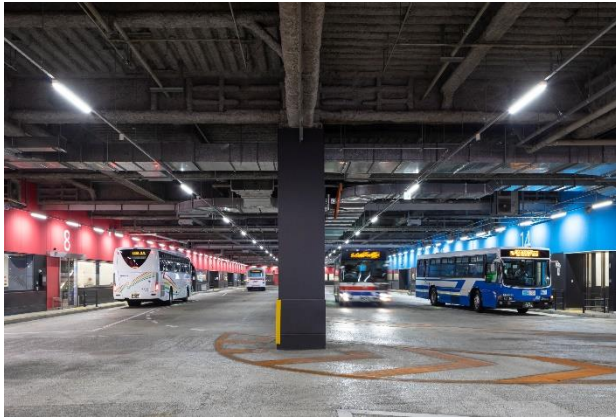
事業概要図（市街地再開発事業）



基幹事業：桜町地区市街地再開発事業

事業内容

本市のシンボルである熊本城と中心商店街をつなぐ重要な場所において、バスターミナル、商業施設、住宅、ホテル、オフィス、公益施設等を再開発の手法によって整備し、熊本地震からの復興を牽引するとともに中心市街地に新たな賑わいを創出し、地区の防災性の向上も併せて図るもの。



○バスターミナル



○商業施設

- ・149テナントが入居
- ・B1 食物販
- 1F 物販
- 2F 物販
- 3F 物販・飲食
- 4F シネコン



○2Fコンコース

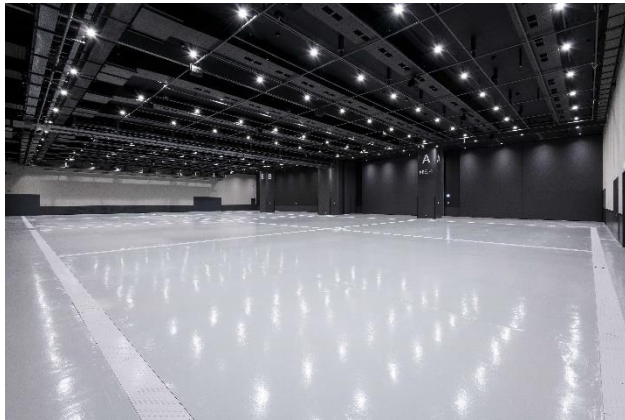


※各種専門店

基幹事業：桜町・花畑地区暮らし・にぎわい再生事業

事業内容

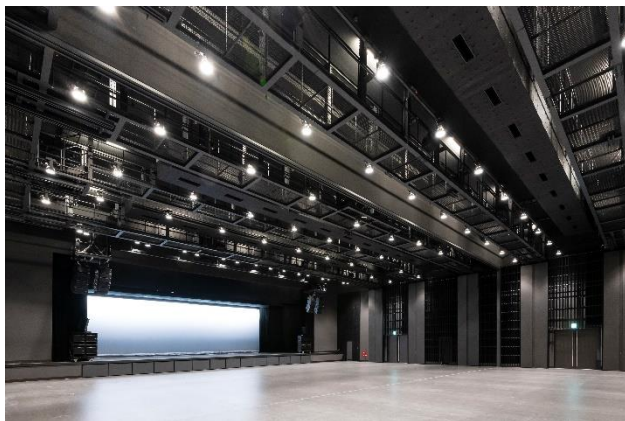
暮らし・にぎわい再生事業を活用し、熊本城ホールを整備することで、中心市街地におけるにぎわいを創出するとともに、市民による相互交流を促進する。



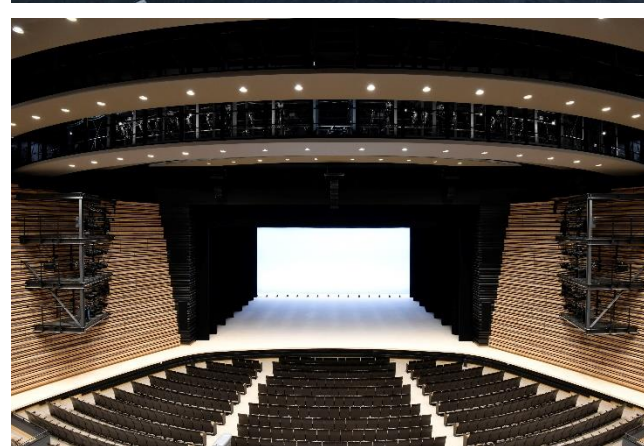
○展示ホール
面積1,630㎡
高さ6m



○会議室
大中小会議室19室



○シビックホール
750席
・移動観覧席：320席
・仮設席：430席



○メインホール
固定席2,304席
・1階席：1,738席
・2階席：566席

2 事業の効果の発現状況

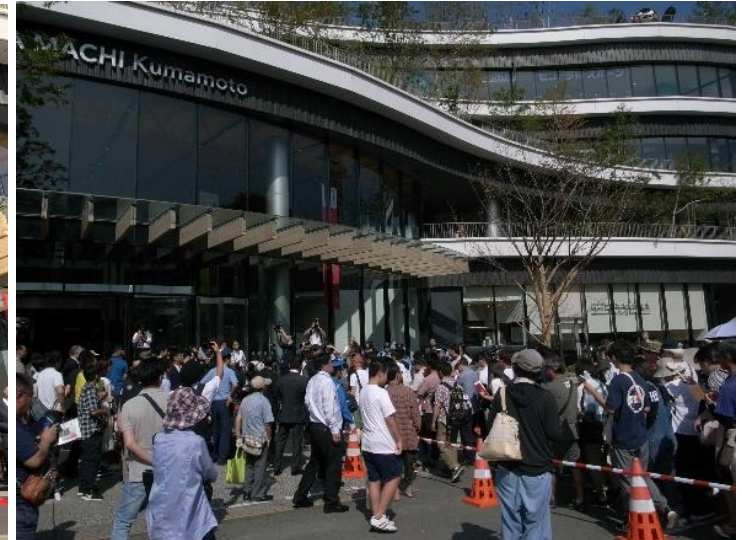
事業の効果の発現状況

基幹事業 桜町地区市街地再開 発事業

令和元年9月のバスターミナルオープン皮切りに、同年11月までに商業施設やホテル、展示ホール等を順次オープンした。

中心市街地の新たな賑わいを創出するとともに、災害時の一時帰宅困難者を受け入れるスペースの確保等を行い、地区の防災性を向上させている。

施設の利用状況等



オープニングセレモニーの様子と賑わい

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業
桜町・花畑地区暮らし・にぎわい再生事業

令和元年12月にグランドオープンした熊本城ホールは、市民主体の文化催事、式典、シンポジウム、屋内型イベント、展示会など、多種多様な催事等が開催され、市民の皆様をはじめとする多くの方に利用されており、中心市街地における新たなにぎわい創出などの効果が発現している。

施設の利用状況等

○熊本城ホールの利用状況について【2019年10月13日～2020年3月31日】

利用者数 約41万人

催事件数 671件



シンポジウム



イベント

3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標 基幹事業： 桜町地区市街地 再開発事業	昭和44年の旧耐震基準で建設された複合施設を再開発事業の手法によって建て替え、 中心市街地の防災性の向上を図ることはもとより、当該施設において、大規模災害時 に発生が想定される帰宅困難者等の受入機能を整備し、安心して魅力ある都市空間を創 出する。				
計画の成果指標 （定量的指標）	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 （結果） （R1）
		当初現況値 （H30）	中間目標値 （H ）	最終目標値 （H31）	
再開発施設の完成により、災害時に 受け入れ可能となる一時帰宅困難者 等の人数の増加	施設整備前後における当該地区の一 時帰宅困難者等の受入人数を比較す る。	0人	－	11,000人	11,000人

3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標 基幹事業：桜町・花畑地区暮らし・にぎわい再生事業	九州中央の交流拠点を目指す熊本市において、桜町・花畑周辺は、平成24年3月に認定を受けた2期中心市街地活性化基本計画（熊本地区）において、本市中心市街地の中でも核となる地区と位置づけている。 このことから、桜町地区においては、再開発事業等により都市機能の更新や魅力ある都市空間としての再整備を行ない、にぎわい創出を図るものである。 さらに、再開発施設の隣接地に、利活用において自由度の高い「広場」を整備し、賑わいを最大化し、中心市街地の回遊性向上や上質な都市空間としての魅力向上を目指す。				
計画の成果指標 （定量的指標）	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 （結果） （R1）
		当初現況値 （H27）	中間目標値 （H 〃）	最終目標値 （H31）	
中心市街地に賑わいがあると感じる市民の割合を増加させる	市民アンケート調査により、「中心市街地に賑わいがあると感じる市民の割合」を把握する	41%	—	60%	59.2%
中心市街地における歩行者及び自転車通行者の通行量を増加させる	中心市街地における歩行者及び自転車通行者の通行量を把握する （旧産業文化会館～新市街 地点）	10,644人	—	24,788人	17,508人
中心市街地における歩行者及び自転車通行者の通行量を増加させる	中心市街地における歩行者及び自転車通行者の通行量を把握する （カリーノセカンド前 地点）	21,300人	—	29,792人	26,196人
中心市街地における歩行者及び自転車通行者の通行量を増加させる	中心市街地における歩行者及び自転車通行者の通行量を把握する （旧ダイエー・櫻井総本店前 地点）	24,408人	—	30,524人	30,492人

4 対応方針（案）

市の対応方針

今後の方針	本再開発事業は問題なく実施され、事業完了している。 再開発施設の維持管理は熊本桜町ビル管理組合にて実施し、継続的な賑わいの創出を行い、大規模災害時には本市と当該組合による協定に基づき一時帰宅困難者へ支援を行う。
今後の事後評価の必要性	《桜町、花畑周辺のにぎわいの創出【第2期】》 - 評価指標の最終目標値は達成していないものの、市民アンケート結果及び通行量より一定の事業効果が発現したものと考えられるため、本事業（計画）に対する今後の事後評価は実施しない。 - 最終目標値の未達成要因として、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛があるため、今後も各地点の通行量を把握する。 《中心市街地の防災性の向上（防災・安全）》 - 評価指標の最終目標値を達成しているため、本事業（計画）に対する今後の事後評価は実施しない。
改善措置の必要性	《桜町、花畑周辺のにぎわいの創出【第2期】》 - 今秋、花畑広場の整備が完了することで、中心市街地の回遊性向上や都市空間の魅力向上、さらなる賑わいの創出を図る。 《中心市街地の防災性の向上（防災・安全）》 - 施設整備が完了したため、本市と熊本桜町ビル管理組合による協定に基づき、大規模災害時の一時帰宅困難者への支援体制を維持する。
同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	今後、同種の事業計画時には本評価手法に基づき事業評価を実施する。